

平成20年度 大学振興会研究奨励補助金報告書

1. 研究課題名

若年女性の価値観と生活に関する一考察

所属学部: 現代マネジメント学部 職名: 准教授 研究代表者氏名: 塚田文子



3. 研究成果の概要 (1, 200字程度で記入。)

本研究は、若年女性の価値観と生活を、理想ライフスタイルをとおして、分析したものである。研究は、椋山女学園大学の1・2年生を対象に、結婚・就労・家族に対する価値観に焦点を当てた。

(1) 調査データ

本研究の調査は、2007年7月～11月に実施され、そのデータをもとに分析が行われた。対象者は、椋山女学園大学の学生(1・2年、6学部:723人)である。内訳は、生活科学部59名、国際コミュニケーション学部78名、人間関係学部98名、文化情報学部120名、現代マネジメント学部283名、教育学部85名である。主な調査内容は、①結婚に対する展望(結婚の意向、結婚年齢、パートナーの年齢、パートナーに望む条件)、②働き方に対する展望(結婚・出産・子育て終了後の就業意向)、③子育てに対する展望(子どもは欲しいか、子どもをもつ時期、子どもの養育担当者)、④家庭生活に対する展望(家事労働の担当者、家計管理の担当者)について、いずれも選択肢による回答を求めた。

(2) 結果及び考察

本研究では、若年女性は、結婚・出産に対して、強い肯定感を抱いていることが明らかとなった。「結婚する」と答えた者は、全体の96.1%で、それも「30歳前」にと答える学生が91.2%、そのうち、「20代前半」でと考える学生も31.6%と高い数値を示している。パートナーの年齢は年上志向が顕著である。「子どもが欲しい」と答えた者は全体の95.5%にのぼる。家事労働など、「おもに自分が携わる」とする者が50.7%、「二人で平等に」が42.3%という結果が出ており、性役割が、比較的、固定されている者と、伝統的な役割分担を否定する者とにわかれる。しかしながら、専業主婦志向の中に、強い差別感を感じたり、不満を持っているというよりも、幸福のイメージを見ている者が多い。働き方に対する価値観については、結婚・出産・子育てを通して、定年まで、フルタイムで働くことに価値をおく学生と、結婚および出産退職後の専業主婦志向に価値を置く学生とに二分される。子どもの養育については、86.5%の学生が「二人でいっしょに」という平等志向の価値観を持っている。パートナーに望む条件は、複数の価値観が散見され、「家庭を大事にすること」や「性格」を重視する学生と、「経済力」に価値を置く学生、「健康」をあげる学生などバリエーションが出ている。

以上の結果をもとに、考察すると、本学学生に代表される若年女性の価値観は、職場一辺倒の価値観というよりは、職場と家庭において、バランスよく自己実現できる方向性を志向し、家族生活においては、温かい家庭生活の実現や、パートナーにも参加を求め、共同して家庭運営に当たることを望んでいる。その背景には、安定した経済や、充実した豊かな人間関係を前提とした家族イメージが彼女たちの将来設計の中に内在化され、組み込まれていることが伺われる。全体として、急進的な価値志向は見られず、豊かで安定した生活の中で、醸成された信頼感が伺われる。当該若年女性層は、大学生活後半となる3年生・4年生において、厳しい現実や学外とのギャップに接し、より具体的な職業に対する価値観や、家庭生活のイメージを構築していくことが仮定される。今後の課題としては、それに寄り添い、支援する教育活動や指導内容を提供できる体制作りについて、発展的に考察を加えることができると考える。